

大人の僕は、その答えを知っている。

まだ会わない、未来の僕の恋人の為に、だ。その恋人との幸せな、安定した生活を送り、愛する子供を生き育て、何不充なく、与え、守り、育てる為だ。その土台を作るために、僕は今、頑張らなければならないのだ。その時が来るまで、何が本当に幸せなのか、不幸なのか、今の僕にはわからない。

今の僕を、今のあるがままに、受け入れてほしい。そして、僕が必要とする時に、見捨てず、手を差し延べて、助言、助力してほしい。自分の型にはめようと無理にしないほしい。未来の僕には、今の僕の気持ちをいつまでも持っていてほしい。

もし、未来の僕が今の僕の気持ちを忘れ、冷たい大人になり、自分の子供に、僕が、今まわりの大人から聞く様な事を自分の子供や、まわりの若者に言うとしたら、今の僕は、未来の自分をうらむぞ！

十一時頃、食事を取り、また、再び、始める。代数の問題を必死に解いて僕は自分の胸の苦しみを忘れようとした。

昼がすぎ、暑くなり、パンツ一つで、玄関の板の間で、ゴロ寝。

母と雑談し、幹夫とふざけ、水風呂に入り、また昼寝する、今の、僕の心の中の様子を、だれも知る事ができるか。

ぼんやりしているうちに日が沈み、テレビを見て、再び、二階の自分の部屋へ行く。夕食後、八時半から、代数演習を、十一時までやり、眠る。ただひたすらに、慰めを数学に求め、過ぎ去った過去の追憶に目をふたす。

一日の悄然たる、この様を誰が知るか。

## 僕は後悔していない